

Ⅱ 調査結果の概要

1 概況

(1) 身長および体重の推移

身長および体重は、男子、女子ともに昭和31年度以降緩やかに増加してきましたが、平成以降ほぼ横ばいで推移しています。

(2) 身長および体重の全国平均値との比較

身長は、男子は6歳、7歳、9歳、11歳、13歳、16歳および17歳で全国平均値を上回りました。女子は7歳、12歳および14歳～16歳で全国平均値を上回りました。

体重は、男子は、5歳～17歳のすべての年齢で全国平均値を下回りました。女子は、5歳～14歳、16歳および17歳で全国平均値を下回りました。

(3) 発育状態の世代間比較

子世代（令和3年度の調査結果）と親世代（30年前の調査結果）を比較してみると、男子は身長の6歳～9歳、11歳～15歳および17歳ならびに体重の6歳～14歳で、女子は身長の7歳～13歳ならびに体重の7歳～12歳で親世代を上回っています。また、親世代との差が最も大きい年齢をみると、身長では、男子は11歳で2.1cm上回り、女子は10歳で0.9cm上回っています。体重については、男子は11歳で1.6kg上回り、女子は17歳で2.2kg下回っています。

(4) 肥満傾向児および痩身傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、男子、女子ともにほとんどの年齢で全国平均値を下回りました。

痩身傾向児の出現率は、男子は5歳、8歳、10歳、12歳および13歳で、女子は7歳、8歳および10歳～17歳で全国平均値より高くなっています。

(5) 主な疾病・異常の被患率等

幼稚園、小学校および高等学校における「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、全国平均値を下回っています。

また、「耳疾患」、「鼻・副鼻腔疾患」および「ぜん息」の者の割合は、すべての学校種で全国平均値を下回りました。「眼の疾病・異常」、「『せき柱・胸郭・四肢の状態』の疾病・異常」および「蛋白検出」ではほとんどの学校種で全国平均値を下回っていますが、「心臓の疾病・異常」の者の割合は、ほとんどの学校種で全国平均値を上回っています。

「むし歯の被患率」の推移をみると、平成26年度から全ての学校種別で概ね減少傾向にありましたが、今年度は小学校で前年度より0.9ポイント増加しました。